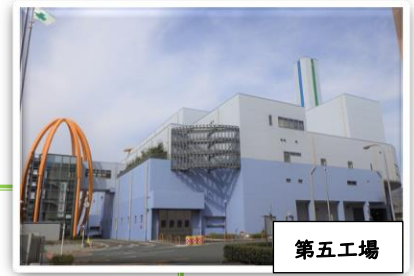


ごみを燃やした熱を利用して、発電し、 電気を売っています！！



令和4年7月の売電収益は、
9,782万5,230円でした。



第五工場には、

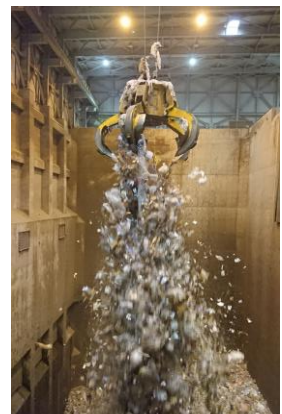
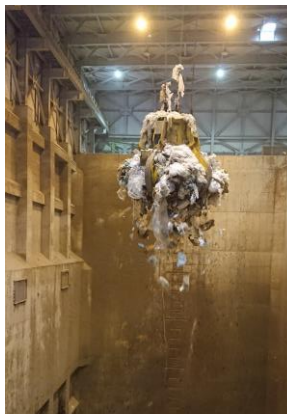
- ①家庭から排出される可燃ごみ（食べ残し、紙類、プラスチック類など）
- ②会社や商店から排出される可燃ごみ（食べ残し、紙類、木類など）
- ③粗大ごみ処理施設で粗大ごみを破碎し、金属を回収した後のくずごみ（木類、プラスチック類、ごみ袋など）
- ④公園や街路樹などから排出される剪定枝や除草した草類
- ⑤資源ごみ（空き缶・空き瓶、ペットボトル）の選別後のくずごみ（ごみ袋など）

など、さまざまなおみ（質、大きさ、量）が搬入され、ごみピットに投入されます。

ごみの中に含まれる①及び②の食べ残しは水分の多い燃えにくいごみとなるため、搬入されたごみをそのままごみクレーンで焼却設備に投入すると、ごみの質にムラができてしまうので焼却が安定しません。

火力発電所は、質にムラが少ない燃料（石油など）を用いているため発電が安定しますが、廃棄物発電は焼却が安定しないと、それに伴い発電も不安定となり、売電収益が上がりません。（廃棄物発電による売電収益については、東大阪市と大東市に還元しています。）

下記の写真のとおり、ごみクレーンを用いてごみピット内のごみを何度も攪拌して、ごみの質が均一になるように混ぜてから、焼却設備に投入しています。



お願い

・ごみを出す前に、可能な限り水分を切ってください

（水分を蒸発させる熱が必要となり、その分、発電出力が下がります）。